

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結び —

校長室だより No.28
“やさしく かしく たくましく”
～ 本気と礼節の教育 ～
令和4年8月26日 文責:安生昌弘

◆ 感動の“仲秋コンサート”

昨日、第1回“仲秋コンサート”が開催されました。3年生以上の全児童が2年半ぶりに体育館に集い、感染症対策をとって本校音楽部の素敵な演奏を聴く至福のひとつときを過ごしました。1・2年生は教室で演奏の映像を鑑賞しました。

無言の内に入場し、心静かに演奏を待つ350名余りの児童が見守る中、部長あいさつに続き、合奏部の演奏からプログラムが開始されました。曲は『スプリングフィールド』広瀬勇人作曲の明るく爽やかな序曲風の曲です。自信を持って演奏する楽器からは美しいメロディーが生まれ、曲の持つ爽やかさを存分に体育館に満たしました。



続いては、合唱部です。部長あいさつに続き、3曲を歌い上げました。『「天空の城ラピュタ」より“君をのせて”』、ジブリ映画の持つ世界観を感じさせてくれました。コンクール課題曲『とどいてますか』、歌う楽しみを手拍子、足拍子ありで伝えました。自由曲『晴天』、青空の様子を温かみのある歌詞で表現しました。それぞれの曲が持つメッセージを全校生が充分に受け取った美しいハーモニーでした。合唱部は明日27日にtbcこども音楽コンクール(喜多方プラザ)と9月7日に福島県下音楽祭合唱(いわきアリオス)に出場します。



両部とも夏休み中の練習や専門家によるグレートレッスン(田村市主催)を受けた成果を発揮した素敵なコンサートになりました。また全校生の一言も発しなくて真剣に聞く態度や教室からの移動から一貫しておしゃべりをしないという、感染リスクを極めて抑える行動は、「さすが船小の子どもたちだな」と嬉しくなりました。頑張りの成果が感じられた素敵な演奏と成長した全校生の姿との二つの感動があった、初めての“仲秋コンサート”でした。

◆ 甲子園優勝と音楽の力

仙台育英高校が、東北勢として初めて甲子園の優勝旗を東北地方に、もたらしてくれました。うれしい限りですが、応援のブラスバンド(吹奏楽)部にまつわる感動的な出来事もありました。育英高校のブラスバンドが決勝戦の応援時に、聖光学院ブラスバンドが応援時に演奏していたGReeeeN(郡山市の大学で結成の音楽ユニット)の『キセキ』を演奏してくれました。夢破れた聖光学院の思いと共に決勝戦を戦ってくれたと多くの人に瞬時に伝わり、大きな反響を呼びました。優勝に相応(ふさわ)しい高校だなと感じ入りました。

言葉でいろいろ話すよりも思いが伝わりやすいもの、それが音楽です。本校音楽部には、これからも演奏のチャンスがあります。是非、聴いている人に感動を届けられるような演奏が出来るように練習を積み重ねて欲しいと思います。そして、音楽の力を信じて、いつでも心が籠もった演奏をして欲しいと願っています。



学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。